



公益財団法人 草津市コミュニティ事業団 編集発行

通算 100号

2月号

2014

コミュニティ

ひととまちをつくる情報誌

くさつ

市民
ぷらす
編集



写真 大條紘史

草津で見つけた遊び心・私の遊び心

遊び心 あるところに人は集まる。
遊び心 楽しむことで人はつながる。
街に出れば、素材はごろごろしているかも。
一度探しに出かけてみましょう。
その前に達人たちの遊び心、こそっとのぞいてみませんか。

もくじ

- ②③ つくりものコンクールにかける熱い思い
- ④⑤ 遊び心はまちづくりの大切なエッセンス
- ⑥ ひとまちキラリ平成 25 年度採択団体の取り組み
- ⑦ キラリで生まれ キラリで育ち キラリとともに…そして
俳句散歩「初春」
- ⑧ おかげさまで 30 年
- ⑨ タイムスリップくさつ
- ⑩⑪ みんなとめん・めん 通算 41 号
- ⑫ 熊谷栄三郎の徒然草津⑫「伊佐々の湯」



イラスト 大村 恵

まちの遊び心

つくりものコンクールにかける熱い思い

3人の歴代町内会長が語る

草津の夏の風物詩、「納涼まつり」。その目玉の一つは「つくりものコンクール」ですね。13回も大賞を受賞しているのが渋川南町内会です。割り箸や爪楊枝、余った畳の端物などを使って、伊勢神宮の「式年遷宮」や「江（こう）」の戦国時代の風景など、毎年、市民の目を楽しませてくれます。今年の夏に向けて、すでに作品づくりに励む卯田時夫さん、武村光造さん、北川茂樹さんの歴代町内会長3名に、これまでの経緯やこだわりを聞いてみました。



畳の質感を生かした小谷城

「制作プロデューサー」の

目はあたたかい

「町内会のまちづくり事業の一環として平成10年から参加し、15年になります。おかげさまで13回の『つくりもの大賞』をいただいています。まずテーマと作品の主材料を決めてから、基本的な土台を作ります。次に、制作メンバーを募集します。いつも40人ぐらいが集まってくれます。女性もたくさん参加してくれそうですね」。

こう語るのは、武村さん、北川さんから『制作プロデューサー』と呼ばれている卯田さんです。卯田さんはじめに作品の全体構想を練りますが、あとは作り手の皆さんにお任せします。

『ああして、こうして』なんて指示はしません。絵心のある人を中心に、自然とアイデアが膨らみ、



北川さん 武村さん 卯田さん

ひとつの大きな作品が完成するんです」。

身近な材料で ズバリ短期集中

お邪魔した渋川南会館には過去の作品がいくつかが飾られています。

「江（こう）姫たちの戦国（いくさ）の作品では畳屋から余った畳の端物をもとって制作、「伊勢神宮 式年遷宮」の作品には割り箸や爪楊枝だけでなく、割り箸の袋までも使用。





まるで本物!! 原材料はなんと...

これらの材料は町内に呼びかけて集めるのですが、色やサイズなどを統一させるのが「苦労だとか」「このちようちは、トイレットペーパーの芯にテープを巻きつけて作っているんですよ」と、北川さんが見せてくれた作品の一部のちようちは、そんな材料で作られているとは思えないほどの再現率の高さ。「捨ててしまうものを活用する」。目を楽しませるだけでなく「コ」にもつながっていると感服です!

部品の一つひとつがとても細やかに、長い時間をかけて作られているものと思いきや、制作期間はわずか10日間とは、ビックリ! 「短期間集中で作ります。その間、中心となるメンバーは毎日制作に励みますが、なかには1、2時間だけ携わる人や、アイデアだけを伝えて帰る人もいます。でも、そうやってみんなの『輪』をつくってくれる人も必要なんですよ。『ああした

らしいんじゃない?』『こうしたらどう?』など、お喋りをしながら作っていく。作品を作ること以上に、みんなで交流することが真の目的でもありますね」と、目を細める卯田さん。

作品がつむぐ思い

作品のテーマは例年、春頃に決めるそう。となると、気になるのは今年の作品。

「毎年、題材にはこだわりがあります。ただ、作品を作るうえで、単にテーマの質だけでなく、全体の色合いなど、パツとみんなの目を引く『晴れやかさ』がないといけません」。うん。作品に対する熱い思いが伝わってきます。

また、「これまでの作品を展示・保存しておく場所が、草津にもつとあればな、と思います」とは武村さん。展示場所の会館はスペースが限られているので、古い作品は惜しくも解体されます。「自分たちが作った作品が跡形もなく消えてしまうのは、やっぱりつらい」と、部品のひとつを持って帰る人もいたりとか。もちろん作品が姿を消したつて、みんなで力をあわせてつくった思い出はいつまでも大切に残り続けますが、作品やその時の思



伊勢神宮の式年遷宮

いをつむぐためにも、少しでも多くの人に見てもらいたいというのも本音です。

遊び心はすでに夏に!

「今後、中心となって作品をつくり続けていくってくれる新しい人も必要ですね。大賞を取り続けているとプレッシャーになる部分もありますが(笑)、今年も町内会の皆さん

と頑張りたいと思います」。

制作プロデューサー・卯田さんの頭の中は、もうすでに今年の構想が練られ始めている模様...。「今度はどうな材料を使い、どんな感じにしようか」。卯田さん、武村さん、北川さんの遊び心は、今やまちの遊び心。今年はどうな大作が生まれるのか!?
こころ期待です!!

遊び心はまちづくりの大切なエッセンス

人生を楽しむ、人を楽しませる。この遊びがあってこそ、生きるうえでの「ゆとり」につながっているのではないのでしょうか。「遊びに師なし」との言葉がありますが、本誌を担当している市民ボランティアのみなさんに、これまでの暮らしの中や街の中で見つけた「遊び心」をうかがいました。

私の遊びはパソコンだったか？

大石 昇

暮らしの中で心にちよつとだけゆとりを持ち、挑戦するものがある、新しい発見がある、何かに役立ちそうだと期待がある、でもそのためにはもう少し能力を高めないといけないなあ、そんな中に遊びがあるように感じます。私の場合はパソコン教室に通ったこと。

人の暮らしは様々だから人それぞれの挑戦があると思う。新しい発見があると思う。そんな喜びを独り占めにするのはもつたない。そう、遊ぶためには仲間やコミュニティが欠かせないのではと思う人はそれそれだけどこか繋がるものがあるのだと信じてみたい。みんなでコミュニティを盛り上げようではありませんか。



楽しかった「街道歩き」

中井 徹

05年に編集ボランティアになつていちばん印象に残ったのは、観光ボランティアさんの案内で、7年間にわたりお伝えした「ゆつくり草津 街道物語」です。道中見つけた可憐な野の花。街角の路地の奥にひっそりと祀られている小さい祠。江戸時代から建っているという道端の石碑。この地、草津にはこのような魅力がまだまだ残されているに違いありません。そんな草津に会う日を楽しみにしています。

雑草が私を遊び人に

橋詰辰夫

誰の言葉か忘れましたが「乗りかかった船には乗れ」という言



葉に出会い「あつ！そうなんだ」と思うようになりました。物事はやるからには正面を向いて手を抜かず本気で楽しんでやる、ということでしょうか？こんな悟りを開いたお蔭で町内会の役もマンションの管理組合の役も苦痛も感じず楽しく務めることができました。

借りた畑で野菜も育てています。畑仕事には雑草退治が付きものです。草取りをしながら「お前はスズメノカタビラか？スズメノテッポウか？」と雑草とおしゃべり。時にはアカザやノビルのような食べられる雑草を見つけると、取り残して大きくなるのを待つて味わっています。雑草も私の良い遊び相手です。

同じことでも嫌々ながらではなく、遊び、戯れとしてやればストレスもなくなり一石二鳥です。こうして私は遊び人になりました。

いやあ 遊びつて面白い！皆さんも遊び人になって草津の街へ自分らしい遊びを見つけに行きましょう！





遊び心は視点を変える

石田はま子

昨年、旧宿内のお地藏さん巡りをしました。そう、「遊び心」と「参拝」を兼ねて…と言ったらお地藏さんに叱られるかな。約30あるうちの4分の3は化粧に綺麗な着物姿、ミッキーマウス風に塗られたのだからあります。子どもの健康を願って地藏盆前に塗られたのだとか。昔は化粧地藏は少なかったようですが。お地藏さん、実は殆んどは阿弥陀さんです。以前、石仏調査をした私は「化粧すると元の形が解らなくなる」と反対でした。今は、「これも時代の流れ」と興味を持っています。視点を変えると見えないう物が見えてくる。これも「遊び心」のお蔭でしょうか。

宗鑑さんが教えてくれる

遊び心

辻浦岩水

「遊び心よ出ておいで!!」と呼びかけて「ハイ ハイ何用でしょうか?」と常に「遊び心」を召集できる人は幸せです。我々凡人には、「遊び心」を収納する余裕がないため、高くついてしまうのが私の「遊び心」です。そんな小生も、草津に移り住んで十数年。「烏丸半島の風車を、琵琶湖の上昇気流?で何とか元気にしてやりたい」という程度の遊び心は持っています。

「宗鑑のいづこへと人の問うならばちとようありてあの世へと言へ」ご存じ、志那町出身と言われています山崎宗鑑の辞世の句。真の「遊び心」を持った人だからうたえる歌だと思えます。こんな人が今



草津に居てくれたら、草津も「遊び心」を大事にする街になるのでは…と未練がましく考えてしまう。これもまた「遊び心」?

「灯心草舎」に遊びに来て

中村明雄

遊び心がいっぱい詰まった絵が草津にある。渋川風景の記憶絵である。私もその制作メンバーの一人として2年間大いに楽しませてもらった。感謝の一言。今、そのレプリカが我が遊時空間「灯心草舎」に掲げられている。遊び心つてあえて説明するものではない。一度「灯心草舎」に遊びに来て、語り合い、感じてもらえればうれしい。

この絵は語り部である私と共に小学校へよく出かける。絵を見た子どもたちが、人と自然との関わりや大切さに気づき、今の渋川の自然や生き物はどうなっているのかという疑問を持った。そこで全校児童や先生が協力して生き物さがしをして絵にすることになり、先月完成した。昔と今の2枚の絵を皆さんに見比べてもらいたい。

豊かな遊び心をこの情報紙に

矢原 功

私は、02年夏から「今月の花」ページを担当し、身近な植物にまつわる話に植物画を添えて04年春号まで毎号執筆してきました。その年の夏からはテーマを「動植物から学んで素敵なヒトになろう」として、10年夏まで連載。動物や植物の進化や意外性、したたかさを紹介させて頂きました。秋からは「ええやん」「近所ライフ」と題し、活発な町内活動の紹介を毎号執筆。

草津は新しい文化と自然が溶け合うまち。豊かな遊び心を持つ魅力的なヒトや活動が溢れている。今後は、多くの市民から原稿や写真を提供いただきながら形を前面に出し、私たち編集委員はそれをレイアウトする立場として応援できればなと願っています。



(公財)草津市コミュニティ事業団では、まちをもっと明るくしたい！困っている人たちの助けになりたい！！
 など、草津での暮らしが豊かになる活動を応援するための助成金事業を行っています。

平成13年度よりスタートしたこの事業は現在までに、様々な分野から、のべ196件のキラリと光る提案をいただき、そのうち42件が採択を受けて、今も草津を元気にしてくれています。

10年以上継続して活動されている団体さんも、実はキラリで採択されたのが活動の第一歩！という話を聞くと、ひとまちキラリにも歴史の重みを感じます。

今後も助成金事業や、草津のまちを元気にしていく、そんな団体活動を支援していきます！



平成 25 年度 採択団体の取り組み



子どもとおやじのふれあい おやじの会

おやじの会で特製うちわづくりを実施し、こども約60人、大人約60人という、多くの方に参加いただきました。

「初めて作ったが立派な仕上がりがなった」「大人でなければ難しい作業もあり子どもと協力して取り組めた」「楽しい体験ができた」など、皆さんに喜んでもらうことができました。



うちわづくり作業風景

郷土史 「志那町のいまむかし」発刊事業 志那町史編纂委員会

町史の編纂に取り掛かり、およそ半分の記事は書き終わりました。

志那町の歴史に造詣の深い女性3名に編纂委員として参画してもらっている他、若者会の協力を得ながら作業を進めています。子どもや若い世代にも郷土の歴史を知り、故郷に対する愛着を深めてほしいと思っています。



町史編纂の進捗状況を報告

「まちキラ寄席」 エコノボイス滋賀

「落語講座」「まちキラ寄席」を開催しましたが、助成金で活動している分、成果を市民の皆さんに返さなければ！というファイトが湧いてきます。草津を題材にした創作落語を披露できたことや、採択団体として新聞などに紹介され、多くの方に活動を知ってもらえました。今は「平成水ビジネス」と題した子ども環境落語に取り組んでいます。



遊び心満載の「まちキラ寄席」チラシ



キラリで生まれ キラリで育ち キラリとともに……そして



縁あって草津に住むことになって十数年。元々、草津は私にとって大好きなコーラスで賞をいただいた思い入れの深い文化ホールのある街でした。引越してきた当時の私には夢がありました。「子育てをしながら子どもと一緒に楽しめるロビーコンサートがあればいいのに。それもあの思い出の文化ホールで」

そんな時でした、ホールで「ひとまちキラリ助成」の提案用紙を目にしたのは。用紙には「あなたも…」の言葉がありました。誘われるように、まちづくりセンターを訪れたあの日は今も忘れません。あの日、担当職員さんから私がもらったのは、活動のアドバイスと勇気でした。この助成の採択を機に「WITH」として始めた「音楽あふれる街♪草津」の活動も今年で10年。「音楽を通じて人と人がつながれば…」私がWITHの名に込めたこの思いは、多くの皆さんに支えられ、地域へと広がり、市民プロデューサーとして草津のまちづくりのお手伝いができるようになりました。

そう、驚くことなかれ。今、私は草津アミカホールの館長をしています。偶然引越してきた一人の音楽好きの主婦が市民プロデューサーとして、また文化ホールの館長として、今もあの日の夢を追いかけていることを思うと、夢にチャレンジさせてくれた「ひとまちキラリ」という制度のある草津の新しさと度量の深さを感じています。

今、アミカホールは市民とともに創るホール運営を目指しています。そこで私は今日も市民の皆さんとの出会いを楽しみにしています。あの日の職員さんのように。

WITH代表 澤孝子（ひとまちキラリ助成 平成16年・20年採択）

初春、早春と言えば梅の花を思い浮かべます。姿も色も香も素晴らしい花木です。今日は芭蕉の有名な梅の香を詠んだ俳句を味わいましょう。
(橋詰辰夫)

俳句散歩 初春

シヤレを好み、人々に親しまれた俳諧の祖・山崎宗鑑。宗鑑さん生誕の地である草津では毎年、宗鑑忌俳句大会も開かれる俳句ゆかりの地。先人たちが五・七・五に込めた思いや句の背景を知れば、グッと深まる言葉たち。そんなゼイタクな時間を届ける「俳句散歩」をどうぞ。

むめがくに

のつとひのてる 山路かな

松尾芭蕉

(梅が香にのつとひの出る山路かな)

七部集は芭蕉が自身の作風の遷り変りを書きしるすと共に、一門の代表作を集大成し蕉風俳句を修業する門人の規範としたものです。「猿蓑」や「炭俵」、「ひさ」などの句集から成ります。この句は七部集の一つ「炭俵」の巻頭を飾る俳句です。

立春を過ぎても余寒身にしみる旅の朝、梅の香が匂う山路にさしかかると、予想もしないところから朝日がひよこりと昇ってきた情景。旅の朝のハプニングを描いた単純な写生句に見えますが、生涯、旅を住まいとした芭蕉の多くの経験と思考の結果行き着いた蕉風の「軽み」を具現化した模範句です。「のつと」という平易な副詞を使って、「軽み」を俳句の世界に取入れ変革をもたらした歴史的な俳句です。門弟の其角は「誠のつと」と絶賛しています。

この俳句が公表されると門弟は競って「すつと」「ぬつと」「きつと」などを詠み込みましたが、芭蕉の「のつと」を超える俳句は生まれなかつたようです。

「単純そうで味わい深い」という点で、俳句と料理は何だか似ています。私は秀句に出会って、良い食材を一流の板前が調理した美味しい料理を思い浮かべます。



おかげさまで30年

カール・ルイスの4冠達成に世界中が沸いたロサンゼルス五輪が開催された昭和59年。この年、私たち(公財)草津市コミュニティ事業団は産声をあげました。その名のとおり草津市におけるコミュニティの醸成と豊かな市民社会を目指しながら、おかげさまで今年の5月で設立30周年を迎えます。ありがとうございます。

これからも市民の皆さんとともに歩みながら、その役割と期待に応えていく団体となるよう、節目となる今年は様々な記念事業を展開します。

草津大好き、愛くるしいキャラクターが生まれます



事業団の役割と意思を象徴する新しいマスコットキャラクターが生まれます。草津が好きで、人と人をつなぐことが大好きな愛くるしいキャラは今から皆さんと出会うことを楽しみに待っています。3月を皮切りに様々な場面に登場しますのでご期待ください。

好きやねん草津！ イベントが目白押し

3月のくさつ市民創作ミュージカルを皮切りに、春から夏にかけては市内の公共施設を中心に草津を楽しむイベントが続きます。また誕生日である5月には記念式典と合わせて、家族で楽しめるファミリーイベントも開催します。詳しくはHPやチラシ、ポスターをチェックしてください。

▶ HP <http://kusatsu.or.jp> ◀

3月 2日(日)	くさつ市民創作ミュージカル 2013 「月の涙～B I W Aパール・ファンタジー～」	しが県民芸術創造館 (主催：草津アマカホール)
4月 5日(土) 6日(日)	子ども汽車に乗って…記念切符プレゼント	道の駅草津
5月 5日(祝)	(仮) 30周年特別企画 ワクワク子どものひろば	草津アマカホール
5月 17日(土)	事業団設立 30周年記念式典 ファミリーイベント (仮)	総合体育館
6月 8日(日)	ロクハ公園感謝祭「ロクハの日」	ロクハ公園
	30周年記念 コンサート&カラオケ大会	長寿の郷ロクハ荘
6月 21日(土)	親子の日 (コンサート、映画会 他)	なごみの郷
7月上旬	まち活落語	まちづくりセンター

* 予定です。名称、開催日、内容等は変更する場合があります。HPで確認ください。

事業団ファンクラブ (仮称) まち活マッチの会の設立

これから、ますます市民の皆さんとともに歩む事業団として、また協働のまちづくりをさらにグイッと進めていくため(仮称)まち活マッチの会を設立します。ただいま、4月の設立を目指して、より価値あるファンクラブとなるよう内容を検討中です。



タイムスリップくさつ

～草津市30年を振り返る～《第2弾》 コミュニティ事業団設立30周年企画

この30年間、草津市内では様々な出来事がありました。住宅開発が進み人口が増加するなど著しい都市化を遂げてきました。いつも見慣れたこの街もその時々起こったことが積み重なって今があります。このコーナーでは、過去30年間の出来事を振り返ってみます。

草津駅前の顔 Lt y 9 3 2 誕生 ～商業活性化一つの起点～



平成元年頃

Lt y 9 3 2 名称の由来

今から25年前の平成元年(1989年)4月1日、草津駅前A地区第一種市街地再開発事業で地下1階地上18階建ての高層複合ビルとして草津駅前東口広場の南側にLt y 9 3 2が誕生しました。

Lt y 9 3 2という名称ですが、皆さん由来をご存知でしょうか。調べてみると「Lakeside city KUSATSU」(湖畔のまち・草津)から来ています。LakeのLとcityのty、草津を数字でごろあわせした932で構成されています。全国から公募して集まった約3,000点の中から選ばれたネーミングで、しかも英語のLではじまる「Liberty自由」「Life人生や生活」「Love愛」「Lucky幸運」などの意味も込められています。また、看板のLとtyをつないでいる緑色の正円(マル)は、びわ湖・太陽・コミュニティの輪を表しています。駅のホームからもよく見える看板ですが、毎日見ている看板も意味が分かると「へ～なるほど」と思えるのではないのでしょうか。

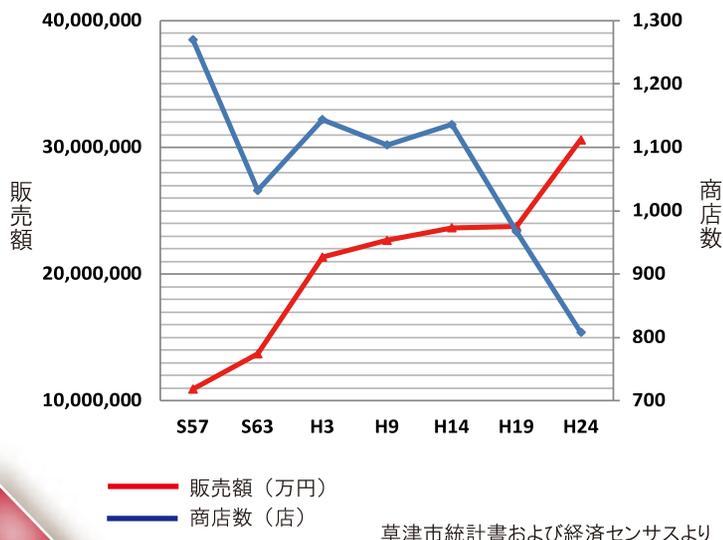
再開発による課題解決と商業の変化

従前のこの地区は、住居と店舗が混在し、老朽木造家屋が密集して宅地も大小様々でした。いったん火災が発生すると広範囲に広がり、緊急車両が進入できないという防災面の課題などがありました。その解決と合わせ、草津市の表玄関にふさわしい都市景観と機能に造り変えようということで、地区内の土地所有者などの関係者によって結成された再開発組合が事業施行者となり、国・県・市のバックアップによってLt y 9 3 2は完成を見ました。完成した当初は、草津市民をはじめ、瀬田・栗東・守山などの近郊でも大きな注目を浴び、買い物だけではなく市街地再開発事業による商業・住宅の複合建築物という珍しさに見物にくる人も多くいました。



昭和60年頃

草津市商業の推移 (総数)



中心市街地の活性化

今では周辺に百貨店や、再開発事業による高層複合ビル、高層マンションも多く建設され、郊外には大型店舗が多数出店し、商店街に空き店舗が発生するようになるなど、商業の流れも大きく変化しました。

草津市では、平成23年10月に策定された草津川跡地利用基本計画と連携し、平成24年度から中心市街地活性化法に基づく草津市中心市街地活性化基本計画の策定にかかり、昨年11月には内閣総理大臣から認定を受けて、草津駅前を中心とした中心市街地の活性化に取り組まれています。

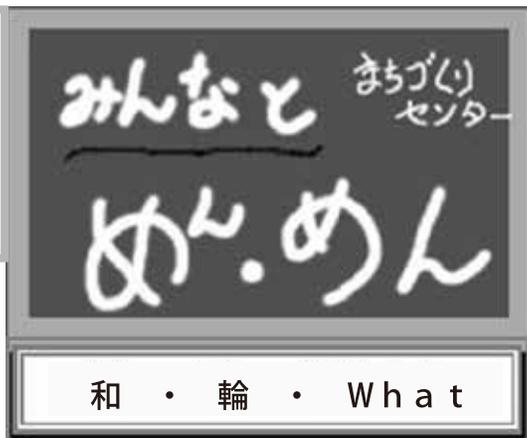
<協力:草津都市開発(株)>

草津市統計書および経済センサスより

情報紙「みんなとめん・めん」は、草津市のみなさんに、登録団体の取り組みや活動を紹介させていただいております。

登録団体は、全体会の他、施設・研修・情報の3つの部会に所属し、まちづくりセンターや『まち』のことを考えながら、みんなで一歩ずつ成長しています。

毎年、登録団体の交流をはかる周年イベントを開催しています。ぜひ、市民活動団体のみなさまも、まちづくりセンターの輪に入り、団体のパワーアップにつなげてみませんか？



まちづくりの仲間を増やしませんか？



まちづくりセンター運営協議会
施設部会副部長 山口 里美さん

活動を始めてすぐに、まちづくりセンターに登録しました。登録団体は運営にも関わります。

これは他の施設では聞いたことがないです。普通は利用するだけですよね。

恐る恐る出席した施設部会は、利用者が使いやすい施設となるように考える場でした。施設内を案内していただいたり、企画を考えたりにしているうちに、他の団体の方たちとも親しくなりました。運営や部会の活動は、施設をよくすることが本来の目的ですが、他の団体とのつながりを強めるきっかけにもなりますね。

今ではまちづくりセンターが私の活動のホームグラウンドです。

設立11周年イベント

参加無料

草津市立まちづくりセンターは、皆様の活動を応援する施設として 11 周年を迎えます。まちづくりセンターの登録団体と市民の皆様の交流イベントを開催します。

- 日時 3月8日(土)10時～15時
- 会場 草津市立まちづくりセンター
- 主催 運営協議会11周年実行委員会
- 内容
 - 10:00～ まちセン今昔物語
登録全団体紹介パネル
 - 11:35～ お昼だよ！

カレー コーヒー 有料
フランクフルト ポップコーン



フランクフルト、ポップコーンは
まちづくり機器を使って作ります

- 13:00～ 参加団体活動発表
- 14:45～ みんなで歌おう
踊ろう、ゲームをしよう

* 託児室あります ご利用ください



新しい年
すがすがしい
出発

子育て支援グループ はな＊はな

登録団体公募作品
田中 敏恵



まちセンの仲間を紹介します

草津塾

草津塾は“大人には生涯学習を”“子ども達には体験学習を”をモットーに、葉山川をフィールドに環境活動を行っています。大人の活動では葉山川の水質調査、植物観察会、川の美化活動他を、子ども達とは笠縫東小の子ども達と葉山川流域での植物観察、生物観察他の学習を、山田小の3・4年生とは菜の花栽培から、油搾り、廃食油を使ったキャンドルづくり迄の学習を。時には“飲み会”等の楽しみも持ち、“都合のつく時に参加”でゆるやかに、楽しく活動を行っています。

一緒に活動をとと思われる方。まずご一報下さい。



草津市母親大会連絡会

草津市母親大会連絡会は、1998年に草津・栗東母親連絡から分かれ、独立しました。

私たちは、「生命を生み出す母親は、生命を育て、生命を守ることをのぞみます」を合言葉に、子ども、暮らし、男女平等、平和を守って母親運動を続けています。毎年、草津市大会、滋賀県大会、日本大会を開き、学び、話し合い、明日への“元気・勇気”につなげています。

第58回滋賀県母親大会は、草津小学校で開催し1000人を超す参加者に、草津市の良さをアピールすることが出来ました。

母親の輪を広げ、平和で住みよいまちづくりをしていきたいと思えます。



草津ワイズメンズクラブ

ワイズメンズクラブは、いろいろなボランティア活動とその支援をしている国際奉仕クラブです。

青少年の健全な育成を目的とするYMCAの活動を支援し、人との豊かな繋がり、奉仕の喜び、生きる幸せを共有しながら活発な奉仕活動をしています。

クラブの例会は毎月行われ、食事を共にして親睦を図り、それぞれが知恵を絞って有意義なプログラムを企画し、「くさつ子どもフェスタ」や「親と子の絆工作教室」など奉仕活動を通じて自分に無いものを吸収し、人との新しい交わりのなかで、若さを保つ活動の歩みをしています。



本クラブに参加したい方やクラブに興味をお持ちの方は、下記までお問い合わせ下さい。

故郷を大切にする会

市民が積極的にまちづくりに取り組む「琵琶湖の感動都市・草津市」の存在を、全国に広め高めるため、2000年春にボランティアグループとして結成しました。「夏まつり江州音頭おどり」「故郷まつり」の開催と「宿場まつり」「子どもフェスタ」など市内行事の手伝いのほか「美化・安全活動」にも取り組み、市民活動推進の一翼を担って来ました。

平成23年の未曾有の災害「東日本大震災」を機にメイン行事「草津夏まつり・江州音頭総おどり」のパワーを切り替え「東北復興支援活動(福島県伊達市物産販売・3回/年)」に全力投入し、誇りある草津市ボランティアの意気を貫いています。

今、市民の皆さんから「当初のような全国の故郷まつりも」の声あり。心ある人一緒にやってみませんか。

“元気に楽しくe-まちづくり”



熊谷栄三郎の
徒然草津
つれづれくさつ

第12回

伊佐々の湯

名のない場所や物に、名をつけてみるのは面白い。すでにある地名だつて、昔、だれかがつけたものだ。なかには面白がつつつけた名もけっこうあるにちがいない。

昨年、上笠の人に昭和五十四年作成という手書きのムラの図面をもつた。笠縫小学校周辺の小字名が五十近く書き込んである。大日、免栗、鯉、屋町、骨コボスなど、想像をかきたてる地名が多い。

例えば伏拝(ふしおがみ)という字名。近くの神社を伏し拝んだ地だろうか。その伏拝という漢字がいつしか忘れられ「フセガミ」「ショガメ」と呼ばれるようになっていたらしい。地元の中村さんは「こどもの頃、ショウガの芽がたくさん出る所やろと思つていた」と。そんな地名の数々も、今では一丁目とか二丁目の呼称でひとからげだ。味気ない。だからというわけでもないが、最近、この付近で仲間と命名遊びを楽しんでいる。市道・淡海くさつ通りが伊佐々川を渡る大日大橋近くに皆で借りている畑がある。端っこにある桐の木の下が「桐の間」。作業の合間に

熊谷栄三郎



ここで寛ぐ。比叡山が真正面なのだが、手前の伊佐々川の土手柳がその秀峰を遮っている。で、この柳めを「比叡隠しの一本柳」と呼んでいる。少し下流で土管から農業用水の余り水が落ちている所が「大日大滝」。

さらに下手の右岸沿いにも仲間の畑がある。その一角の、缶ビールで大宴会ができる草地在「鳳凰(ほうおう)の間」。ここに畑の水やり用中古の浴槽が三つも並んでいる。これぞ露天風呂「伊佐々の湯」。藻だらけの濁り水だけど、比叡や比良の絶景が一望できる。夏など、本当に入浴する連中が出てくるかも。いや、人ごとではない。今、私も湯につかっている気がして口ずさんでいる。
♪お医者さまでも伊佐々の湯でも
ドッコイショ、遊び心はコリヤ、なお
りやせぬよ、チョイナチョイナ。

編集後記

▼置かれた環境の中で楽しく暮らすコツ。ズバリ好奇心と遊び心。草津で楽しまなくちゃ(矢原)▼着込んだ寒がり屋は窓辺で騒ぐズメの声を聞きたいなど春を待っています(中井)▼初日の出は雲に遮られ、待つこと30分。雲間からうっすらと見えてきた。日本の世相を暗示しているかのよう(橋詰)▼♪ぼくらはみんな生きている♪渋川小児童、先生全員での「渋川生きもの絵図」完成!!一緒に口ずさんでいました(中村)▼進化し続ける草津。新しさの中に昔ながらの優しい遊び心がたくさん見つかる大好きなまちです(大村)▼編集ボランティアに誘われたのが2001年暮れ。読者の皆さんに支えられて13年、100号までできましたが楽しんでいただけでしょうか(大條)▼私も「遊び心」真っ最中。珍しい瓦を探しています。「遊び心」は人生を楽しくしてくれますね(石田)▼遊び心のある街、住みよい街ってどんな街なんでしょうね。またみんなで語り合えるコミュニティを創っていききたい(大石)▼最近、些細なことで怒鳴ることが多くなった。「人間、聴くは速く語るはおそく怒鳴るはさらにおそくあれ」努めてそうありたいと思っはいるのですが。「遊び心」の欠落でしょうか(辻浦)▼街で見かけるもの。吹雪の翌日の馬の雪像、牛乳箱で昼寝する猫。道行く人を見つめるビィナス像、いつもと同じ風景の中に、気づくとうれくなるシーンがあります(荒川)

イベント情報



☆ロビーコンサート

2月22日(土) 14:00～
なごみの郷 1Fロビー
出演：しいずん

なごみの郷 568-4753

☆お楽しみ演芸会

2月23日(日) 13:00～15:00
ロクハ荘 大広間
内容：キッズダンス 湖都の風

マジック&マジック 篠笛を吹く会

ロクハ荘 563-5021

☆第6回ロクハ公園写真展

2月24日(月)～28日(金) 市役所1Fロビー
3月2日(日)～9日(日) 市民交流プラザ
3月11日(火)～23日(日)

ロクハ公園 564-3838



市民編集ボランティア募集



コミュニティくさつの取材や編集をおこなっていただく市民編集ボランティアを随時募集します。
草津市民の方ならどなたでも応募いただけます。
(公財)草津市コミュニティ事業団まちづくり振興課までお気軽にお問い合わせください。

発行/ (公財)草津市コミュニティ事業団 まちづくり振興課
〒525-0037 滋賀県草津市西大路町9-6

まちづくりセンター内

TEL/077-565-0477 FAX/077-562-9340

Mail/com-com@mx.biwa.ne.jp URL/http://kusatsu.or.jp

